



## 多摩テクノプラザの4つの異業種交流グループ活動中！

都産技研の異業種交流グループの育成支援事業は、昭和59年から本部で続けられていましたが、多摩テクノプラザでも平成22年の開設を機に、多摩の産産連携支援として事業を開始しました。

現在、平成22年度から平成24年度に設立した「多摩異業種交流会22」(14社)、「H23たま下駄会」(12社)、「TAMA24」(21社)の3グループと、今年度、設立を支援している多摩テクノプラザグループ(23社)(図1)の計4グループが多摩テクノプラザを拠点に活動しています。



図1 平成25年度多摩テクノプラザグループ発会式

各グループの参加者は、多くが経営者ですが、多忙の中、ほぼ毎月1回の定例会を実施(ほとんどが懇親会付き)し、異業種の交流による技術開発や商品開発を模索しています。現状では、特筆すべき共同開発などの成果はありませんが、「腹蔵なく話のできる知己を得たのがなにより」という声を数多くいただいています。

「多摩異業種交流会22」では、グループのホームページを開設し積極的に会員情報の発信を行っています。

<http://www.tama22.org/>

また、「TAMA24」では、名刺や資料に活用するグループのロゴマーク(図2)を作成し、情報発信力の向上に取り組んでいます。

それぞれ、企業や研究所の見学会のほか、他のグループとの交流活動なども積極的に実施



図2 TAMA24グループのロゴマーク

しています。昨年度は、本部グループと合同の定例会、長野県のグループとの交流、山梨での合宿研修などの活動を行っていました。今年度は、8月に多摩テクノプラザの既存の3グループが合同の交流会を開催し、ますます交流の輪を広げています(図3)。

そもそも異業種交流グループ活動は、業種の異なる複数の企業が得意技術を出し合うことで、相乗効果により新製品・新技術開発が期待されるという点から、全国的に活動が広まりました。しかし、各地の活動を見ても実際にはなかなか期待通りの成果が生まれていないのが現状です。

交流活動への期待は、製品や技術開発のみではなく継続的な経営者のネットワーク活動にもあるようです。



図3 多摩3グループ交流会

都産技研は、毎年度新しく設立する異業種交流グループの会員を4月に募集しています。7月の発足から翌年の3月まで都産技研が事務局として毎月の交流会を運営し、2年目からは自主運営の活動に移行します。現在25グループ(約380社)が活動中です。

事務局では、ビジネスライクな活動にとどまらないアットホームな人のつながりを大事にする運営を心がけています。ぜひ、都産技研の異業種交流活動にご参加ください。

総合支援課 <多摩テクノプラザ>  
久慈 俊夫 TEL 042-500-2300  
E-mail: kuji.toshio@iri-tokyo.jp